

広報 Koho Gallery
展示室

第44回

歌川広重の最大の揃物「名所江戸百景」は安政3年2月改印から同5年10月改印の2年9ヶ月の歳月で制作された。（後に二代広重による安政6年4月改印の作品1枚と梅素亭玄魚の意匠による目録1枚を合わせた120枚揃として売り出された）広重はこの作品制作中の安政5年9月6日に歿してしまう。この作品は極上の摺りの揃物が複数組存在することから入銀物だったと考えられる。入銀物とは、有力者から先にお金を集めてから制作に取りかかる作品（例えば写楽の黒きら摺の大首絵が知られる）のことである。その為、摺彫に贅を尽くした作品に仕上がっている。版元は下谷新黒門町に店を構えていた新進気鋭の地本問屋の魚栄こと魚屋栄吉である。彫師は2名の名が作品中に記され「彫千」は須川千之助、「彫竹」は横川竹次郎と推測される。2名とも当時は錦絵の彫りの名手と言われていた。摺師は不明である。

広重の風景画は横判が多かったが、晩年、豎判の構図に新機軸を打ち出した。例として「亀戸梅屋敷」の梅樹の一本の枝を極端に大きく描き、他を遠方に小さく描く近景拡大型構図法が挙げられるが、同様の画法で制作しているのが「深川萬年橋」、「亀戸天神境内」、「はねだのわたし弁天の社」（後期出品）、「四ッ谷内藤新宿」（後期出品）などである。「大はしあたけの夕立」は川は右下がり架けられている。川と橋による緩やかな楕円の不安定な構図となっている。空には不変則な墨壺ぼかしの雨雲が描かれている。「深川洲崎十万坪」（後期出品）では、空高く飛んでいる大鷲の翼が画面を包み込む様に大きく広げられている。大鷲の眼下には江戸湾や洲崎海岸が広がり、遠くに筑

— 春季特別展 —

日本の四季 名所江戸百景展（後期）

波山を望む、幻想的な雰囲気演出されている。

上記の作品は、いずれの作品も成功した例であるが、このシリーズ全体では景観説明に重きを置いた作品が多く、見せる風景画として位置づけられ、名所の案内のように描かれている。「名所江戸百景」は広重の画業における代表的な作品で、風景画の集大成といえる。



歌川広重「名所江戸百景 水道橋駿河台」

那珂川町馬頭広重美術館 学芸員 市川信也

【会 期】 前期5月17日(日)まで
後期5月21日(木)～6月21日(日)

【ミュージアムトーク（展示解説）】

5月23日(土)午後1時30分～ 当館学芸員

【開館時間】 午前9時30分～午後5時まで
(ただし入館は4時30分まで)

【入館料】 大人 700円(630円)
高・大学生 400円(360円)
小・中学生 100円(90円)

※平成21年4月から町内の小中学生は、入館料が無料になりました。

※()は20名以上の団体料金。70歳以上、小学生未満は無料。障害者手帳をお持ちの方・付き添い1名は半額。

那珂川流域活性化連絡協議会主催

「地域の素材(紙、布、木)
の心豊かな創造性」

創作人形展
— 下川明子の世界 —

5月12日から15日の間、馬頭広重美術館ギャラリーで開催される上記作品展の中から2作品をご紹介します。



「倒木に寄り添う男」

ミニ
ギャラリー



「矢車草」